

はじめまして

松本真哉

はじめまして。松本真哉です。専門は機能性色素の結晶構造や構造物性相関に関する研究です。教育人間科学部担当時に始めた環境教育の仕事も、最近ではそれなりの重みを持って進めています。すでに教育人間科学部から理工学部担当が変わって2年5ヶ月ほどが過ぎていきますので、新任教員という言葉は少し気恥ずかしい感じがしますが、どうかよろしくお願ひします。ここでは私の経歴と最近考えていることを述べたいと思います。

出身は大阪府立大学工学部応用化学科です。そこで機能性色素の研究に出会い、修士課程に進みました。その後、有機材料が活躍している現場で働きたいという青臭い希望を持ち、シャープ株式会社でエンジニアとして働く機会を頂きました。勤務はアクティブマトリックス型液晶パネルの製造技術部門で、生産現場で利用されている有機材料とそのプロセス技術などに向き合っていました。大学ではかなり夢の世界を体験していたのだと気付いたのは、恥ずかしながら会社に入ってからでした。会社ではもちろん夢も持って仕事をしますが、毎日が迫り来る現実との戦いの日々でした。丸2年が経ち、現場で利用されている有機材料の性質や構造、そしてプロセス技術などを更に勉強してみたい希望を持ちましたが、業務上の限界があったため、3年で会社を退社し博士課程に進学しました。そのときに横浜国大と出会いました。大学院では色素結晶の構造と光物性について学び、修了後は1年間の理化学研究所でのポストドク勤務の後、理工学部の改組でなくなった教育人間科学部の地球環境課程に勤務することになりました。大学に奉職してからは、企業の勤務時に強く感じた、有機材料の性質をその固体構造を基に考えることを軸に、機能性色素の研究を進めています。そして化学の教員として環境に興味を持つ学生の教育に関与し始めて、環境教育について考えることが増



え、素材などのライフサイクルを考える環境教育の教材開発を始めました。化学EPに進学される人にとっては、例えばプラスチックが石油から幾つもの過程を経てできることは当たり前のことですが、化学に興味を持たない人や理科系の科目が嫌いな人にとっては、全くそんなことは考えもしなかった、という現状があることを仕事で化学に関係する皆さんに一度考えて頂きたいと思います。持続可能な将来を考える上で、良い素材や製品、技術を生み出すことが全てではありません。今の生活様式がもたらす影響を学び自分の生活を考えることも大変重要な要素です。そのために私たち化学者も、私たちが限りある地球の恩恵を受けて生活していることを伝える義務がある、と最近よく思うようになりました。そして私は今、環境教育の機会を通して微力ですが伝える努力をしています。一方、色素の研究は、これまで有機太陽電池や半導体素子などの応用に向けた活動を進めてきましたが、原発事故後に少し方向性を変える気持ちが強くなっています。この点についてはまだもやもやしている部分が大きく文章にするまで至っていません。機会があれば皆さんと議論できれば幸いです。

何とも中途半端な締めくくりですが、私はこのような考えを持って仕事に取り組んでいます。どうかこれからよろしくお願ひ致します。